



雄飛

校訓

考える人 心豊かな人 たくましい人

霧島市立国分南中学校
学校便り 5月号
令和7年5月1日発行

「ヤバい」「エグい」などを多用してない？

校長 平國弘明(ひらくに こうめい)

「ヤバっ」「えぐっ」「うざっ」などの感情表現が犯罪リスクと関連していることがNHK「クローズアップ現代」(4/16 日放送)で取り上げられていた。「ヤバい」という言葉をどんなときに使っているだろうか？うれしいとき、悲しいとき、焦っているとき、くつろいでいるときか。喜怒哀楽、どの感情も「ヤバい」の一言で事足りている。本来は、人の感情は大ざっぱに分けても、100の言葉に分類されると言われるが、「ヤバい」のように、短語(短い単語)でどんな感情も表現しているとどんな影響があるのか。



430人を収監する佐賀青少年刑務所。今、闇バイトなどで検挙された受刑者に、ある共通の課題が持ち上がっているという。それは、刑務官の方々によると、受刑者の多くは作業や面接において感情を表に出さない。『出し子(特殊詐欺事件等において、被害者からだまし取ったキャッシュカードで、ATMなどから現金を引き出す役割の者)』をやった人は、言葉は知らないし、感情や表情がなく、どういう感情を持っているのか正直わからないということだった。一方、『出し子』をやった受刑者は、「出し子をやっているときは何も思わず、感情もなく、うわべだけの会話をし、発する言葉はほぼ「ヤバい」のみ。指示通り、強盗、殺人を犯した。たまに自分が怖くなった。」と語っている。アンケートでは、「自分の気持ちがわからないと思う時があるか？」という問いに、なんと35.6%が「いつもそう」「だいたいそう」と答え、22.4%が「どちらともいえない」と答えている。

ではなぜ、自分の気持ちや感情を表現できないのか。闇バイト加担の受刑者はインタビューで、「まわりをあまり信用していない。自分の感情を押し殺して、他人の顔をうかがって生活してきた」とか、「(意見や相談事)それを言ってどうなるんだろう。どうせ大人なんて」などと思っていたと答え、そして、闇バイトに加担した半分以上が誰かに相談することもまったくしない、ほとんどしなかったと答えていた。

受刑者などのアンケート調査の分析にあたられ、感情について研究されている渡辺弥生さんによると、受刑者には、自他の感情に気付けない、感情を理解できない。感情を言葉にできない、感情を表現することが難しいなど、“感情リテラシー(自分自身や他人の感情を認識し、言葉として表現する能力)”に課題があることが分かってきたそうである。その原因の一つが、デジタル化による文字媒体でのコミュニケーションの増加。短い言葉でのやり取り、文字のみなので、互いの深い気持ちまでの読み取りができないこと。2つ目が、ライフスタイルの変化による家族での団らん、会話などのコミュニケーション不足。3つ目がスマートフォンの利用時間が長く、画面ばかりを見ていること、受け身なので、語彙を学ぶ機会が減り、自分から表現することもなく、感情を推し量る機会も乏しくなっていると指摘されていた。このままでは、どんどんその傾向が高まっていくと考えられる。

そのような状況から“感情リテラシー”を身につけることの重要性が注目されている。番組では、元受刑者への教育支援とある小学校での取組が紹介されていた。元受刑者への教育支援では、例えば「怒り」という言葉には、いくつもの表現があり、言葉によって感情の度合いに違いがあることや自分の今の感情がどの言葉にあたるのかを確認し表現していくなどの取組より、言葉で具体的に説明することで相手から言葉を引き出せることや対話の中で言葉をしっかり言語化することの大切さを実感し、そのことにより再犯率がゼロに押さえられているということだった。また、その小学校では、学校生活すべてで「気持ちを言葉にする」に取り組み、入学当初は、かんしゃくを起こしたり、教室から出て行ってしまったりする児童もいたそうだが、次第に落ち着き、校内での暴力事案も減る成果が出ているとのことだった。

「“怒り”“喜び” など感情は、その度合いに応じて、表現できる言葉がある」「自分の感情を言葉で表現する」な

どを学んでいくことは、犯罪に巻き込まれたり、加担したりすることや級友や家族等との行き違いを防ぐことにもつながる。自分自身の“感情リテラシー”はどうかを考え、「感情を言葉で表すこと」を意識し実践していこう。

第58回入学式 171名入学

第58回入学式を4月7日に挙行し、本年度は6つの小学校から171名が入学しました。緊張した面持ちではありましたが、しっかりした態度で式に望む姿を見、これからの中学校生活における成長や活躍の期待が高まりました。「新入生誓いことば」では、新入生代表者が中学校生活への思いや決意を堂々と述べ、代表にふさわしい立派なものでした。

中学生そして南中学生としての自覚をもち、大切な3年間を充実させましょう。



様々なガイダンスが実施されました ～今年も見参！5Cレンジャー～

年度初めにあたり、スムーズな学校生活を送るために、南中学校では、4日間をかけて「生活」「生徒会」「総合」「部活動」に関する4つの「ガイダンス」の時間がある。中でも中学校の生徒会活動を説明する「生徒会ガイダンス」では、生徒会役員の2、3年生が寸劇を交えながら、途中、「5Cレンジャー」も登場し、ユーモアを交えながら、学校生活や生徒会活動の「大切な教え」をわかりやすく伝えた。生徒会は、生徒自身一人一人がつくり上げていくもの。「自分たちのことは自分たちで」という「自治」の精神を大切に、自分たちの学校生活をよりよいものにしていこう。



交通安全教室

～交通安全にしまった間違えたはない～

15日(火)6校時に、霧島警察署・霧島市交通安全協会の方々を講師に、交通安全教室を開催。いずれの学年に対しても交通ルールや交通安全に関する実技指導や講話をしていただいた。特に1年生においては、校庭に準備された模擬交差点等を用い、自転車通学生を中心に実技指導を行っていただいた。乗車の仕方にまだ、不慣れな部分もあり、停止線を越えてしまう生徒や左右の安全確認が不十分な生徒も見られた。本校区の住宅街には、見通しの悪い小さな交差点や路地、幅の狭い通りもある。また、マナーや法令遵守が十分でなく、地域の方々に注意していただいたとの報告も受けている。交通安全規則を怠ったり、誤っては絶対にいけない。交通安全にしまった間違えたはない。



各種健康診断実施

4～6月にかけて、内科検診、歯科検診、耳鼻科検診、眼科検診、身体計測、1年生は心臓検診等の健康診断が行われている。自分の健康状態を把握することはもちろん、自己の健康増進に対する取組を振り返る機会でもある。検診後に、不十分な点を教えてくださる校医の方もいらっしゃる。

「受診態度が素晴らしい」と高評価の一方、「歯磨きが不十分、磨けていない」との残念なコメントもあった。「自分の未来は自分で築く」。将来に渡って、健康を維持できるよう、今、歯磨きや運動などをしっかり行っていくことが大切である。

3年全国学力・学習状況調査 標準学力検査(NRT)等実施

標記の調査や検査をすでに終えた。これまでの学習内容の理解度はどの程度だっただろうか。これらの調査結果が返ってくるにはしばらく時間がかかる。NRTはこれまでに履修した内容をどの程度、理解しているかを統一した標準的な問題により検査するものである。全国の標準的理解度が50という数字で表され、それを上回れば標準以上、それ以下であれば標準以下ということになる。全国学力・学習状況調査は、「全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図る。また、児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる」などの目的で文科省が行っている調査である。いずれにして、これまでの学習に対する成果を把握し、今後の取組に役立てなくてはならないものである。結果が届いた際には、十分に参考にしてもらいたい。

新年度の部活動開始

先出の「部活動ガイダンス」を終え、新入生の入部、2、3年生の部活更新手続きが終わり、体操服姿の1年生も部活動に参加する姿がみられるようになった。全中まで行ってもわずか2年4か月の期間でどんな結果を残すか。日々の取組の濃さがその結果を左右する。気張れ南中健児！

受賞・表彰

R7.3/30 鹿児島女子高杯バレーボール大会 3位

R7.4/ 6 神園旗野球大会 3位

※全校朝会で受賞伝達を終えたものを掲載